

I 第30週の発生動向 (2008/7/21~2008/7/27)

1. 咽頭結膜熱については、東地方+青森市保健所管内において2007年第45週から、むつ保健所管内では、2007年第48週から**警報**が続いています。(注:警報開始基準は2人/定点、終息基準値は0.1人/定点です)。
2. ヘルパンギーナについては、むつ保健所管内において新たに**警報**が出されています。

II 第30週五類感染症定点把握 注:五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患番号・疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)	東地方(再掲)		青森市(再掲)			
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点		
(85) インフルエンザ															0						
(74) RSウイルス感染症								1	0.17					1	0.02	0					
(75) 咽頭結膜熱	11	1.22	2	0.22			1	0.20	6	1.00	9	2.25	29	0.69	8			11	1.38		
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	0.89	5	0.56	1	0.11	2	0.40	3	0.50	3	0.75	22	0.52	-8	1	1.00	7	0.88		
(77) 感染性胃腸炎	24	2.67	1	0.11	3	0.33	8	1.60	5	0.83	12	3.00	53	1.26	-21	7	7.00	17	2.13		
(78) 水痘	9	1.00	6	0.67	12	1.33	5	1.00	4	0.67	2	0.50	38	0.90	-26	2	2.00	7	0.88		
(79) 手足口病	4	0.44	11	1.22	1	0.11							16	0.38	7			4	0.50		
(80) 伝染性紅斑					4	0.44	2	0.40	1	0.17			7	0.17	-2						
(81) 突発性発しん	6	0.67	4	0.44			2	0.40			6	1.50	18	0.43	-2			6	0.75		
(82) 百日咳															-1						
(72) 風しん	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0					
(83) ヘルパンギーナ	19	2.11	49	5.44	11	1.22	2	0.40	5	0.83	56	14.00	142	3.38	46	1	1.00	18	2.25		
(73) 麻疹	平成20年1月1日から全数把握疾患に移行しました。															0					
(84) 流行性耳下腺炎			1	0.11	1	0.11					1	0.25	3	0.07	-1						
(86) 急性出血性結膜炎															0						
(87) 流行性角結膜炎	1	0.50	2	0.67	3	1.50	4	4.00	1	0.50			11	1.00	3			1	0.50		
(95) マイコプラズマ肺炎			3	3.00	1	1.00					2	2.00	6	1.00	5						

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
東地方	2	1	1	0
弘前	15	9	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
青森市	12	8	4	2
合計	65	42	23	11

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

III 表II以外の感染症法対象疾患 (注:届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前2人、八戸3人 (20年計:289人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患): 弘前1人 (20年計: 5人)
- (64) 後天性免疫不全症候群(五類全数把握疾患): 八戸1人 (20年計: 4人)

感染症の窓

アメーバ赤痢

表 全国及び青森県における届出数推移

	青森県	全国
2000	1	220
2001	—	235
2002	—	245
2003	—	268
2004	—	610
2005	3	688
2006	—	373
2007	1	435
2008/7/28 現在	4	283

本疾患は原虫に分類される赤痢アメーバ (*Entamoeba histolytica*) が原因で起こる感染症です。青森県では、7月現在、4人(2月、4月、7月)の患者が届けられており、近年においては最も多い患者数です(左表)。症状は、病変部位によって、以下のように大別されます。

- ・腸アメーバ症: 下痢、粘血便、しぶり腹、鼓腸、排便時の下腹部痛、イチゴゼリー状の粘血便など多様です。
- ・腸外アメーバ症: 主症状が肝膿瘍、肝腫大。

感染は、患者の排せつ物によって汚染された飲食物や糞便などの経口摂取により感染します。衛生状態の悪い流行地域においては、なま水は避け、加熱した飲み水や十分加熱された食品を飲食することが基本的な予防対策です。また、近年、衛生状態の良い環境であっても発症者が見られていることから、排便後や飲食前の手洗いの励行など日頃からの一般的な感染症予防対策も重要です。